

森と水の源流館 第一回授業づくりセミナー概要報告

- 開催日時 平成 30 年 7 月 14 日(土) 13 時 ~ 16 時
- 会場 森と水の源流館
- 参加者 尾上・木村・上西・成瀬・古山(森と水の源流館)、奥田(関西学院大学大学院)、島(郡山西小)、川崎(川上小)、新宮(平城小)
谷垣・藤本・北村(奈良教育大学)、
- 傍聴 栗山忠昭(川上村村長)、弓場盛正(教育長)、今福和男(水源地課長)、福本彰(川上小校長)
吉田志帆・加藤満(水源地課)

○内容

1. 開催日時(全 5 回)

6 月 22 日(金)16 時・8 月 8 日(水)14 時・27 日(月)14 時・12 月 7 日(金) 16 時・
1 月 11 日(金)16 時

2. 研修の主な内容

○今までの取組について概略説明

ESD ⇒ Education for Sustainable development

持続可能な社会づくりの担い手を育成する教育

1987 年 環境と開発に関する世界委員会(ブルントラント委員会)

持続可能な開発の表現が使われる

「将来世代のニーズを損なうことなく現在の世代のニーズを満たす開発」

◎世代内の公正と世代間の公正

2016 年 持続可能な開発目標(SDGs)発効 (17 の項目と 169 のターゲット)



◇持続可能な社会づくりの担い手を育成する教育を通して、SDGs の達成に貢献する教育へ



近畿 ESD コンソーシアム

- ・持続可能な開発のための教育を实践できる教員の養成
(学習指導要領の中にも ESD の理念が反映)
- ・ESD 実践への支援活動
- ・大人への ESD ⇒ ユネスコ協会などと連携して進めている
- ・構成団体 教育委員会 4 小中学校 45 高校 2 社会教育関係 5 など 85 団体

授業づくりセミナーでは

年 5 回実施 授業構想 ⇒ 指導案作り・検討 ⇒ 実践 ⇒ 分析
森と水の源流館スタッフとともに現地に行き学ぶ
森と水の源流館スタッフの専門的知識から学ぶ

村長さんの話より

- ・川上宣言は村民の思いの発信であるが、下流域の住民に理解されているのだろうか。

- ・先生方が授業されているので、村がバックアップしていきたい。
- ・大雨の後、流木が家を壊すという話が出ると胸が痛む。
木は悪くないのだ。⇒ 山の管理が大切なのだ。
- ・山、森、川は、人の責任で整備していかなければならない。

教育長の話より

- ・山の荒廃は人の責任である。
- ・都会にはない村の暮らしがある。源流の村に誇りを持っている。
- ・山と平野はつながっているということを村人は考えている。
- ・山を守る ⇒ 水を守る ⇒ 環境を守る ⇒ 故郷教育でもある。



○島 俊彦先生の実践報告（大和郡山市立郡山西小学校）

実践を4つの観点から話し合いまとめていった。

得られる ESD の視点

責任性…川上宣言にもあるように源流に住むものとしてのきれいな水を下流に流す。

連携性…川上宣言の実現に住民が協働して取り組んでいる。

相互性…川上村の取組から、自分たちの生活排水や富雄川の汚れの改善に目を向ける。

ESD の資質・能力

長期的思考力…大和川の汚れの70%は生活排水であることから、どのようにすれば、きれいな排水ができるか考え、実践していく。

関連…大和郡山に流れる吉野川分水のきれいな水は川上村からきている。また、自分たちが流す水は大阪湾に流れ込んでいる。

世代間・世代内の公正…山や森を守りきれいな水をいつまでも下流域に流す。

文化の尊重…山で育まれてきた産業や生活を誇り、都会にはない豊かな生活を守っていく。

⑩**住み続けられる街づくり**…森林の保全や活用を通して豊かな生活を創ろうとしている

⑫**作る責任使う責任**…上流域のきれいな水を流そうとする考えと、中下流域のきれいな水の恩恵と流す水への配慮。

⑭**海の豊かさ**…自分たちの流す水によって海の環境が良くも悪くもなる。

⑩**不平等をなくそう**・⑰**目標を達成しよう**という意見もありました。

ESD の価値観

SDGs の何に貢献できるか